PETER DAVID BETER・音声書簡 第52号

1979年11月30日

テーマ1 戦略的イランとイスラム教ホミニー革命

1 シャー家の10月22日、イランに到着すると怒りが吹き荒れた。



2 シャー政権下でイランはソ連に近いアメリカ軍に武装していた。



3 サヴァックの抑圧と急速な西洋化は、大衆の不満を深めた。



4 イスラム教は多くの西洋人の観察者が理解し難い形で公共生活を形成した。



5 亡命後、アヤトッラー・ホメイニのメッセージはイラン中に流布した。



6 ウイザー将軍はシャーの崩壊の間にイランの軍事指導者と会った。



7 1979年初頭に君主制が崩壊すると、ホミニーはテヘランに戻った。



8 ベターは秘密部隊が密かに革命を主導したと主張した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第52号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第52号

1979年11月30日

テーマ2 ボリシェヴィキ・イランの熱核戦争戦略

1 ベターはイランを隠れたライバルの電力ネットワーク間の戦場として描きました。



2 イランへの軍事的アクセスを要求した最初の攻撃計画は米国のものだったと主張する。



3 同氏は、人間のようなロシアのロボロイドがワシントンのライバルに影響を与えたと述べた。



4 ベターは、この作戦を6段階の鎖に分けて戦争に向けて組織した。



5 ステップ1は、メッカ巡礼中に不安を悪用すると述べました。



6 ステップ2では、テヘラン大使館の押収をトリガーとして使用する。



7 後にイスラエルがサウジの油田を攻撃し、イランに恩赦を与えた。



8 最終シナリオは、オーストラリアにあるミサイル発射地点からソ連の球体宇宙圏のサイトを標的とした。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第52号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第52号

1979年11月30日

テーマ3 アメリカの人質とテヘランの戦い

1 シャーのニューヨーク到着は11月4日の大使館の占領に先立って行われた。



2 バサルガン首相は11月6日、危機的な状況の中、辞任した。



3 偽の警告が11月9日に米国の司令センターに到着した。



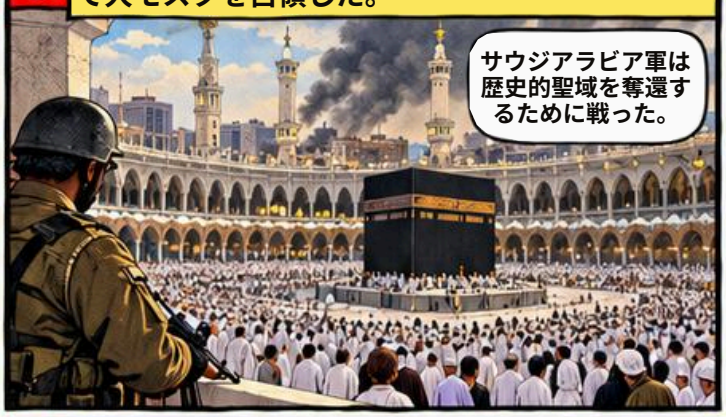
4 部隊は11月12日にフッド砦に集結して演習を行った。



5 ワシントンはイランの石油購入を中止し、イランの資産を凍結した。



6 武装した兵士は11月20日にメッカで大モスクを占領した。



7 空母の動きとアメリカ軍の任務への攻撃は、地域的な緊張を喚起した。



8 ベターはテヘランの戦いと呼んで、興味をそそる説明責任を要求した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第52号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。